

地名の歴史と由来／「高井戸」の地名

幸田有美子(杉並区立郷土博物館分館)

町名の変遷

現在、京王井の頭線「高井戸」駅一帯は、江戸時代の頃に、「上高井戸村」と「下高井戸村」と呼ばれ、更に現在の「松庵」の東側にあたる場所は、「中高井戸村」と呼ばれていました。

慶長15年(1610)、五街道のひとつである「甲州海道(のちに甲州道中)」が整備されたことで、街道沿いにあった「上・下高井戸村」には、各々に宿場が設置されて「上高井戸宿」・「下高井戸宿」と呼ばれるようになります(写真1参照)。



写真1 『五街道中細見記』一部 当館蔵
安政5年(1858)のもの。左下に、「下高井戸」・「上高井戸」の位置が記されている。

そして1670年代になると、「高井戸札野」の新田開発によって、「大宮前新田」・「松庵村」とともに、「中高井戸村」がひらかれます。また、この「中高井戸村」がひらかれた経緯について、『新編武蔵風土記稿』では、承応2年(1653)より始まった、多摩川の水を江戸まで引き入れる「玉川上水」(羽村(現羽村市)の取水堰から四ッ谷大木戸(現新宿区四谷)までの43kmにわたるもの)の掘削事業によるとも記されています。それは、この掘削箇所が、「上・下高井戸村」内の民家屋敷内にも及んだため、土地を失った村民たちは、代地としてあらたにひらいた土地を「中高井戸新田」と唱え、後に「中高井戸村」と呼ぶようになったといいます(註1)。こうした経緯を経て、村名に「高井戸」とある村は、三か村となりました。

そして、明治22年(1889)におこなわれた町村制施行によって、「上・下・中高井戸」と、「久我山」・「大宮前新田」・「松庵」の各村が統合されて「高井戸村」となりました。「高井戸」の名が村名として採用された理由は、近郊にひろく知られていたためといいます。

時を経て昭和44年(1969)の住居表示実施により、もとの「上高井戸村」あたりは「高井戸東」・「高井戸西」・「上高井戸」といい、「下高井戸村」あたりは「下高井戸」・「浜田山」、そして「中高井戸村」あたりは「松庵」という町名となり、現在に至っています。

「高井戸」の由来

「高井戸」の地名由来については、諸説あり、その一つに『武蔵名勝図会』(文政3年(1820))によるものがあります。それは、小名「堂の下」周辺にあった辻堂の傍に、かつて清水があり、そこが小高い場所であったため「高井戸」と呼ばれるようになったという説です。しかし、本書の編纂当時、既にこの清水は、枯渇してその場所も不明となっていました。本書では、天正期(1573~92)以前までそう呼ばれていたのではないかと記されています。

最後に、もう一つの由来を紹介します。それは、本山派修験道「本覚院」(下高井戸4丁目)にあった「不動堂」が、「高井堂」と呼ばれていたことが、由来となった

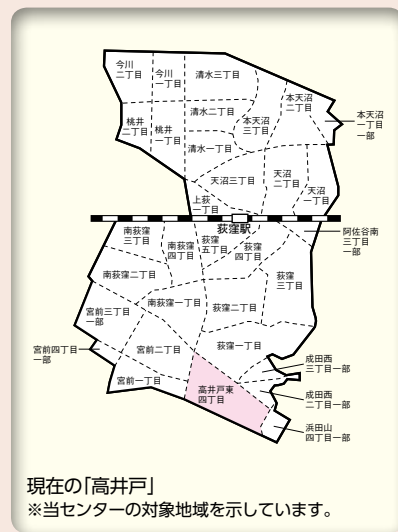


写真2 宗源寺境内にある「不動堂」 筆者撮影

という説です。残念ながらこの「本覚院」は、明治5年(1872)に廃寺となり現存していません。しかし、明治44年(1911)に「不動堂」は、付近にある叡昌山「宗源寺」(下高井戸4丁目2-3)の境内に移され、現在もその姿をみることができます(写真2参照)。

(註1)
村を開いた頃の年代については未詳とあります。

主要参考文献
『文化シリーズ19杉並の地名』(昭和53・杉並区教育委員会)『文化財シリーズ37杉並の通称地名』(昭和53・杉並区教育委員会)『特別展甲州道中へのいざない』(平成25・杉並区郷土博物館)



現在の「高井戸」
※当センターの対象地域を示しています。